



特定非営利活動法人GAP総合研究所

理事長

新福秀秋 (農業生産法人新福青果 会長)

専務理事・研究所長

武田泰明 (常勤 (元)日本GAP協会専務理事・事務局長)

理事

池田信太郎 東京2020組織委員会 アスリート委員
 斉藤一志 株式会社庄内こめ工房 代表取締役
 玉造洋祐 有限会社ユニオンファーム 代表取締役
 服部一成 有限会社服部果樹園 代表取締役
 藤田文雄 興農股份有限公司(台湾法人) 総経理

監事

松丸正明 元:一般財団法人日本GAP協会 理事・監事

事務所

- つくば事務所&研修センター
〒300-1259 茨城県つくば市稻荷原2番1号
日本農業研究所実験農場事務所内
TEL:029-893-4424 FAX:029-893-4425
- 台湾事務所
〒43245 台湾台中市大肚区中和里南榮路101号
興農股份有限公司/玉美生物科技研究公司
- 香港事務所(休止中)

沿革

- 2006年11月
NPO法人日本GAP協会として創業
- 2014年7月
NPO法人日本GAP協会の通常総会において、
財団法人日本GAP協会を新たに設立し、
同財団へのJGAPスキームの譲渡を決議
また、NPO法人日本GAP協会を
NPO法人アジアGAP総合研究所に名称変更することも決議
- 2015年1月
財団法人日本GAP協会 発足
NPO法人アジアGAP総合研究所 発足
この組織改定により、JGAPスキームの独立性、ガバナンスの
安定性、財務の永続性、オールジャパンで官民連携を実現

日本唯一のGAPのシンクタンクとして
東アジアのGAP指導と農産物のブランド化を支援します



日本とアジア 農産物の品質管理体制構築をトータルサポート

GAP指導者の育成と現地指導

JGAPの指導と研修

日本のデファクトスタンダード（事実上の標準）GAPであるJGAPの指導や研修を提供します。

GAP総合研究所は、JGAPの指導農場数 No1。

支援事例

▶▶▶ <日本・九州> JA 柑橘部会 JGAP 認証取得支援
取引先の手小売業の要望により、生産管理体制の向上を目的とした JGAP 導入を支援。良質で安全な柑橘の生産を実現し、優先的な取引を実現

JGAP 各種研修

初 …初心者の方にお勧め 中 …中級者の方にお勧め 上 …上級者の方にお勧め

JGAP 指導員基礎研修（2日間コース） GAP 初心者にも最適内容です。	初 中	団体認証研修（2日間コース） 生産者団体（JAなど）で JGAP に取り組む方法を学びます。	中 上
JGAP 指導員現地研修（1日コース） JGAP 認証農場を訪問し、農業現場で研修を受けます。	中 上	審査員研修（3日間コース） 審査員になりたい人の為の研修です。	上



- ・GAP 総合研究所は日本 GAP 協会公認 JGAP 研修機関です。
- ・GAP 総合研究所は GAP 人材育成のための専用の契約農場を持ち、審査員から指導員まで養成します。

茨城県つくば市にある研修農場

GLOBALG.A.P. と米国 FSMA-GAP の指導と研修

欧州のデファクトスタンダードGAPであるGLOBALG.A.P.および米国向け食品輸出で法律として必須※1となる米国FSMA-GAPの指導や研修を提供します。

支援事例

▶▶▶ <日本・近畿> 農業生産法人 野菜 GLOBALG.A.P. 認証取得支援
輸出先からの要望であるGLOBALG.A.P. 認証の取得を支援。
JGAP 認証は既に取得済みだったことから、GLOBALG.A.P. が発行している JGAP/GGAP ガイドライン※2 を利用して取り組み負担を軽減し、認証を短時間で取得。

※1 2017年秋より運用開始 ※2 JGAP/GGAP ガイドライン：Guideline for JGAP Certified Producers aiming at GLOBALG.A.P. Certification

- ・GLOBALG.A.P. 会員
- ・グローバル・フードバリューチェーン推進官民協議会 会員

流通企業や食品メーカーの原料産地の GAP 指導・二者監査の受託

バイヤー企業が定める独自の調達基準の【導入・指導/二者監査】をサポートします。

JGAPやGLOBALG.A.P.などを部分的に利用し、独自の調達基準であっても、低コスト・短期間で導入する手法も提供します。



支援事例

▶▶▶ <日本・東海> 茶園と茶工場
大手飲料メーカー独自の基準を導入するにあたり、JGAP を活用。
原料産地のすべてがJGAPを取得したうえで、メーカー独自基準との差異部分のみを指導および二者監査することで、独自基準を全ての原料産地に低コスト・短期間で導入。

農産物のブランド化の支援

農産物のブランド化と、それを支える産地の品質管理体制の構築を支援。

産地リレーを伴う大規模ブランドから、2015年6月施行の地理的表示法に基づくGI登録まで指導します。

支援事例

▶▶▶ <日本・全国>
全国規模で高精度トマト農家が集まり、産地リレーを組み、一つのブランドを形成。ブランドの設計から農業現場の品質管理体制の構築まで支援。

日本の農業者の東アジア進出を支援

東アジアを中心とした海外への日本産農産物の輸出支援と、日本の農業者による海外現地生産を支援します。

農業技術の国際交流促進や、国境を越えた産地リレー構築など支援。

日本・台湾・香港に事務所を構え、日本の農業者の東アジア進出をしっかりと支援します。



対応地域
台湾・香港・中国・シンガポール
タイ・マカオ・アメリカ・韓国

支援事例

▶▶▶ <台湾・台中> 農業生産法人 野菜 JGAP 認証取得支援
台湾の農場に日式管理としてJGAPを導入し、台湾・日本・香港の3つのマーケットへ営業を展開。

対応可能な規格・地域・言語・品目

農産物から食品までカバーします

JGAP・GLOBALG.A.P.・米国FSMA-GAP・有機JAS・ISO9001・ISO22000・HACCP・FSSC22000

日本とアジアに広がる指導員 <対応地域> 日本・中国・台湾・韓国

指導可能言語 日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語

品目 青果物・茶・穀物